

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
素素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第69期第2四半期累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日まで)につきましては、長期収載品が薬価改定や後発品使用促進策の浸透による影響を受けたものの、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」などの新製品が堅調に伸長するとともに、抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」の非小細胞肺癌への効能追加に伴い大きく伸長しました。また、オブジーボのロイヤルティ収入も大幅に増加したことから、売上は増収となりました。

利益面では、売上拡大に伴う売上原価の増加に加え、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費もオブジーボに関わる経費増などから増加しましたが、増収の影響額が上回ったため、大幅増益となりました。

国内の医薬品市場においては、新薬創製のための研究開発費がますます増加するなか、医療費抑制に向けた後発品使用促進策、薬価制度の見直しに向けた議論が進められるなど、新薬開発型企業にとっては厳しい状況が続いています。

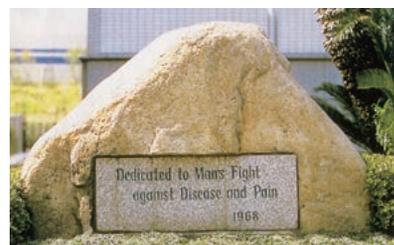
このような事業環境の中、当社は新薬開発型製薬企業として永続的に発展していくために、「開発パイプラインの拡充」、「海外展開の推進」に取り組むとともに、「企業基盤の強化」に努めています。



三つの経営課題に対する取り組み

開発パイプラインの拡充	持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出すことが不可欠です。創薬においては、オープン・イノベーションを推進し、独自のかつ画期的な医薬品創製を加速しつつ、事業戦略性の高い、あるいは医療ニーズの大きい疾患に対する有望な新薬候補化合物の導入に引き続き注力していくことで、今後も継続的な新薬上市に努めます。また、臨床試験においては、新薬開発のスピードアップにも努めます。
海外展開の推進	自社創製の新薬を世界中にお届けできるよう、海外での臨床開発を推進するとともに、海外提携企業を通じて、自社創製化合物の海外での上市を目指してグローバルな事業展開を推進しています。また、抗がん剤などのスペシャリティー製品については、海外でも自社で販売していけるようアジアから自社販売の基盤づくりを進めており、韓国、台湾では現地法人を通じて自社販売を開始しました。引き続き、海外での事業拠点を整備していきます。
企業基盤の強化	グローバルレベルでの競争力を高めていくため、人財の育成と活性化、事業のスピードアップに努めます。また、多様性の向上に取り組み、さまざまな環境変化への対応を図ります。さらに、CSR活動については、「コーポレートガバナンス」「革新的な医薬品」「人財・人権」「環境」「公正な事業慣行」「社会」を重点領域として位置づけ、一層推進していくことで、企業基盤の強化を図っていきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁